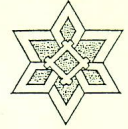


# ふくい

舞鶴市立福井小学校

令和4年11月30日発行

(本年度9号)



人権旬間

思いやりの気持ちをもって過ごす。

## マラソン・合唱・思いやり…師走

荒天のため一日延期して開催した今年の「校内マラソン大会」。当日は少し肌寒い天候でしたが、子ども達は日頃の練習の成果を発揮し頑張りました。学校は運動会が終わるとマラソン大会モードになり、今年も10月17日から朝マラソンに取り組んできました。朝休みを利用してグラウンドのトラックを5分程度ランニングをしますが、継続することでずいぶん力が付くものです。取組を始めた頃は、すぐに疲れていましたが、体育の時間も含



めて1か月近く練習を続けると、走力も持久力もそれなりに備わってきます。「校内マラソン大会」は学校から喜多方面に向けて、低学年は2.3km、高学年は3.0kmの距離を設定しています。上り下りがあるタフなコースなので、途中で歩く子もいましたが、最後まで諦めないで走り結果的に全員が完走しました。高学年の先頭争いは熾烈でした。駆け引きをしながらペースを考えて走り続けるのはとても難しいですが、レースとして非常に見応えがありました。果敢に飛び出したが力尽きてしまったり、後ろに付いてプレッシャーをかけたり、ラストスパートの仕掛けどころを考えたり…。ゴールするまで気が抜けないレース展開となり、1位と2位のタイム差はわずか1秒でした。そんな中で、コツコツと練習を積み上げ自分のペースをキープしながら力走を見せ、先頭グループの一角に食い込んだ子もいました。まさに練習の賜物。努力無くしては成し得なかったでしょう。上位入賞者だけでなく、練習も含めてどの子もよく頑張りました。運動は得意な子もいれば苦手な子もおり、子どもによって個人差も大きいです。しかし、一人一人が練習を積み上げながら力を付け、それぞれが全力で自分の記録に挑戦する意味合いが濃いのも「校内マラソン大会」のよさで、学校行事として取り組む価値もそこにあります。苦しい事は避けたいのが人の常ですが、苦しさ負けそうになる自分の気持ちを奮い立たせてゴールを目指した経験は、きっと自分自身を鍛え、心と身体の成長につながっています。

11月にはその他にもたくさん行事を実施しました。「音楽集会」では、各学年が練習を重ね素敵な発表ができました。低学年は、音楽の時間に学習したことを生かし、楽しくかわいらしい合唱でした。高学年は、「さすが！」と思わせる美しい歌声を響かせ、練習の成果を披露しました。

先日は、「きずなフェスタ」を開催しました。きずな班で協力して様々な工夫をした6つのコーナーを考え、当番を交代しながら活動しました。ペアになり、上級生が下級生を優しくリードしながら楽しく遊ぶ微笑ましい姿が見られました。コロナ禍で「ふふふフェスタ」が実施できず、去年は子ども達だけの取組でしたが、今年はPTA本部役員の皆様に、手探りで箱の中身を当てる「箱の中身は何だろう」コーナーを担当していただきました。前もって手の入れ口を工夫した箱を作り、タワシやけん玉、ゴムのおもちゃなどの中身も準備。当日は、本部役員自身が箱の中身になるなど、見ているだけでも楽しいコーナーになりました。コロナ禍で行事が縮小傾向にある今「子ども達に楽しく思い出に残る活動をさせたい。」と、PTAとして積極的に取り組んでくださりとても感謝しています。

11月下旬から12月上旬まで「人権旬間」の取組を進めています。学校生活では子ども同士のトラブルは付き物。意見の対立もあればケンカもあります。しかし、相手の立場を理解し、お互いに思いやる心を持つ大切さ学びながら問題解決する経験を積むことで、よりよい人間関係を築く力が育ちます。「優しく相手の立場を思いやる心」がたくさん感じられる学校でありたいと思います。

12月に入り、各学年では学期末に向けてまとめや2学期の反省など学習も慌ただしくなります。2学期も残すところ16日。保護者・地域の皆様には引き続きご理解ご協力をお願いいたします。

校長 波多野 暢 教職員一同